

テキスト マタイによる福音書 25章14～30節  
参照カテキズム 子どもカテキズム 問61, 62

### 〔単元のねらい〕

幼稚園の年中・年長ぐらいから小学校低学年を対象に、説教展開例を考えてみた。小さな子どもには、タラントンという表現でなく、思い切って、お金・金貨といった表現に置き換えても良いかも知れない。いずれにせよ、私たち人間は、神さまからたくさんの預かりものをいただいていることをおぼえさせて、それらを自分自身の楽しみだけでなく、友だちなど周りの人たちの楽しみのためにも用いる生き方へと子どもたちを促したい。

## 「神さまからの預かりもの」

こどもの教会（日曜学校）の愛するお友だち、おはようございます。

まだまだ寒いけれど、みんな、元気ですか？今週も、みんなが、風邪のばい菌に負けないように、元気一杯、遊んで、勉強できるように、先生、お祈りしているね。

さあ、今日も、イエスさまがしてくださった、たとえ話をしましょう。イエスさまは、こういうお話をしてくださいました。

とってもお金持ちのご主人が、遠い遠い国へ旅をすることになったの。ご主人は、召使いさんたち、三人を集めて言いました。

「はい、ご主人さま、何のご用でしょうか。」

「わしは、しばらく、遠い遠い国へ旅をすることにした。わしが留守の間、しっかりお仕事をしておくれ。」

「はい、ご主人さま。」

ご主人は、旅に出る前に、召使いさんたちにお金を預けて、そのお金で、何かお仕事をして、お金を増やすように言い付けました。それで、ご主人は、召使いのAさんには五タラントン（金貨50枚）、召使いのBさんには二タラントン（金貨20枚）、そして、召使いのCさんには一タラントン（金貨10枚）預けました。そして、ご主人は、遠い遠い国へ旅に出かけました。

すると、五タラントン（金貨50枚）預かった、Aさんが言いました。

「よし、ぼくは、このお金で、お百姓さんから作物を買って、市場で売ることにしよう！」

すると、二タラントン（金貨20枚）を預かったBさんも言いました。

「よし、ぼくは、このお金で、漁師さんからお魚を買って、市場で売ることにしよう！」。

そして、この二人の召使いさんは、一所懸命、市場で、お仕事をしました。

ところが、一タラントン（金貨10枚）を預かったCさんは、とっても困ってしまいました。そして、いろいろ考えて、「そうだ！」って、ついに思い付きました。

何と、Cさん、地面に一所懸命、穴を掘りました。そして、預かった一タラントン（金貨10枚）を埋めてしまいました。いったい、どうするのかな？

しばらくして、ご主人さんが、遠い遠い国から帰って来ました。五タラントン（金貨50枚）を預かったAさんが言いました。

「ご主人さま、ご覧ください。あと五タラントン（金貨50枚）増やしました。」

ご主人は、にこにこしながら、「よくやった。よし、もっと多くのものをお前にまかせよう」とほめました。

二タラントン（金貨20枚）を預かったBさんも言いました。

「ご主人さま、ご覧ください。あと二タラントン（金貨20枚）増やしました。」

ご主人は、にこにこしながら、「よくやった。よし、もっと多くのものをお前にまかせよう」とほめました。

もう一人の召使い、Cさんも、地面の中に埋めておいた一タラントン（金貨10枚）を持ってやって来ました。「ご主人さま、お預かりした一タラントン（金貨10枚）です」。

「何、お前は、何かお仕事をしなかったのか？」

「はい、地面の中に埋めておきました」。

「どうして、お仕事をしなかったのかね」、そう言って、タラントンを全部取り上げてしまいました。

イエスさまは、こういうお話しをしてくださ

たの。

今日のイエスさまのたとえ話から、みんなにおぼえてもらいたいこと、それは、こういうことです。

みんなも、神さまから、とっても大切なものをいっぱい預かっているの。親切な心を預かっている人は、お友だちに親切にしましょう。力を預かっている人は、お友だちが困っていたら助けてあげましょう。私たち、ぼくたちは、神さまから、とってもすばらしいものをたくさん預かっています。それをお友だちのために役立てようね。神さまは、とっても喜んでくださるよ。 (長谷川潤)

---

[今週の暗唱聖句]      マタイによる福音書 25章29節

だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、  
持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。

---



## 〈ねらい〉

イエスさまが帰ってこられる日への備えとして、

- ① イエスさまのことを忘れず信じ続けること
- ② 聖書の言葉を聞いて心を照らしていただくこと

を学んできました。そして本日は、

③ 自分を神と人のために用いることを学びます。聖書のお話の展開例は、説教展開例が大変参考になります。幼稚科ではそのお話を受けての展開例にいたしました。

## 〈展開例〉

## 【お話】

イエスさまが帰って来られた時、イエスさまはわたしたちにこうたずねることでしょう。

- ・ ○○くん、きみはその手や、足をつかって何をしてきましたか？ おとうさん、おかあさんのお手伝いをしましたか？ テレビゲームばかりやっていたか？ なまけていませんでしたか？
- ・ □□ちゃん、きみはその目と耳をつかってなにをしてきましたか？ 聖書のおはなしをたくさんききましたか？ 好きなテレビばかり見ていましたか？

その時、「はい、僕はたくさんお手伝いをしました。」「はい、私は聖書のお話をたくさん聞きました。」って言える人は、イエスさまからよいしもべだ、とほめていただけます。

わたしたちがいただいている手や足、耳、目、鼻、そして体は、全部神様からいただいたものです。わたしたちはいつかイエスさまにお会いする時、それらのいただいたものをどのように使ったか聞かれます。そしてそれらを神様と人のために使った人はイエス様からほめていただけます。大好きな先生からほめられるととてもうれしいように、大好きなイエスさまからほめられるほど、嬉しく、

幸せなことはありません。

## 【祈り】

天のおられる神さま、せいしよのお話をたくさん聞き、おとうさん、おかあさんのお手伝いもたくさんできるようにしてください。そしてイエスさまにほめていただくことができますように。イエスさまのお名前によって、お祈りします。アーメン。

## 〈幼稚科カテキズム（人生）〉

わたしたちにとっていちばんのしあわせは、

いえすさまからほめていただくことです。

## 〈暗唱聖句カード〉

## よいしもべ



ちゆうじつ よ しもべ  
忠実な良い僕だ。よくやった。  
またい  
(マタイ25:21)

**ねらい**

人間は誰でも神から職務を与えられている。「タラントン」は「タレント」と同じ意味で、才能や能力を意味する。各自、神から賜物（能力）を与えられており、その賜物を用いて、仕事をすることが求められている。その際、能力の点で、他人と比較して仕事をするのではなく、神からの呼びかけ（calling, 職業の意味もある）の声を聞いて、それに応答することが仕事の意味である。

**展開例**

ここにてでくる、ニタラントン預かった人、五タラントン与えられた人は、タラントンの量

が違うが、神は、それぞれに二倍に増やして仕事をした、その神への応答に注目して、まったく同じ評価を下している。

一タラントンを与えられた人は、その才能を使わず、仕事をしなかったので、神から叱られている。能力の差に注目するのではなく、たとえ小さな仕事であっても、それを神から預かった仕事と考えて、この世の中で忠実に仕事をする事が求められている。

**祈り**

他人の能力を羨んだり、自己の能力を卑下することなく、神への感謝の気持ちをもって、喜んで仕事をさせてください。

**～ 話し合ってみよう ～**

神から与えられている自分の適性は何か、お互いに話し合ってみよう。



自由メモ

**聖書日課**

マタイ 25 : 14～30

**暗唱聖句**

だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。

(マタイ25 : 29)

**〈ねらい〉**

主人が旅行に出かけるとき、三人の僕（召使い）を呼んで、各々の力に応じて、一人には五タラントン（金貨50枚）一人にはニタラントン（金貨20枚）もう一人には一タラントン（金貨10枚）をあずけた。主人が旅から帰って来た時、三人は主人からあずかっていたそのお金をどのように使ったのか、また、主人がその三人をどのように評価したのかを見てみましょう。

**〈展開例〉**

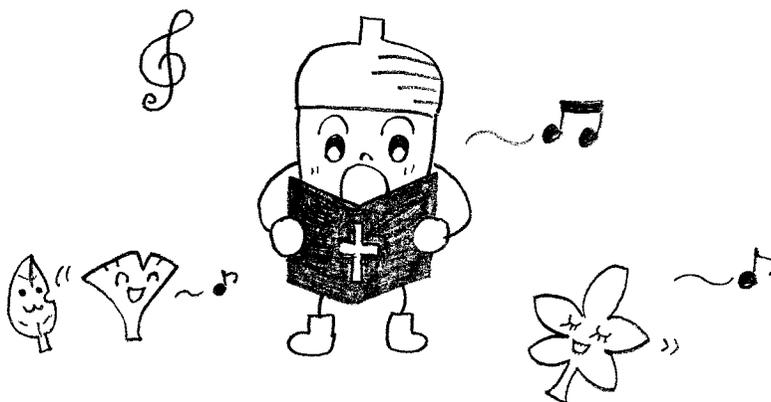
五タラントンを預かった者はすぐに出て行き、熱心に商売をし、ほかに五タラントンをもうけた。ニタラントンを預かった者はニタラントンをもうけた。一タラントンを預かった者は、出て行って穴を掘り、金貨を隠しておいた。しばらくして、主人が旅から帰ってお金の清算をはじめた。五タラントン、ニタラントンの僕の報告に、「よくやった。わずかなものに忠実であったから多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」と言った。

しかし、一タラントンの僕の報告には、「怠け者の悪い僕だ」と言い、タラントンを取り上げてしまった。

タラントンは金貨であるが、神様から私たちに与えられている才能、賜物、命、体等々と考えてもよい。神様からの預かりものである。そういうタラントンをご主人（イエス様）の為に使わなければいけないということである。自分のためではなく、友達、近所の人、おじいさん、おばあさん、体の不自由な人、困っている人、そういう人たちのために、自分が喜んでできることをしよう。そして、神様に喜んでいただける様な生活をしましょう。

**〈祈り〉**

神様から与えられているタラントンを、自分のためではなく人々のため、役立つよう使うことができるよう、導いてください。イエス様の御名によってお祈りします。



対話の手掛かりとして……

- ① 神さまから与えられている人生の条件、能力や環境が違う中で、周りの人と自分とを見比べてしまうことがあります。そして、僻みの思いに陥り、自分が自分であることを喜べなくなり、自分に与えられているものを生かして前向きに、積極的に生きることができなくなってしまいます。しかし、主イエスは、そんな私たちに、自分に与えられている一タラントンの素晴らしさを、譬え話をとおして教えようとしています。
- ② 神さまは、最初のふたりには五タラントンや二タラントンをお与えになりました。最後の者にはそれより少ない一タラントンです。ここに表われているように、自分より恵まれた人、より豊かな賜物を与えられている人は周りにたくさんいます。そういう意味では神さまは人間を決して平等に造っておられません。人それぞれに違ったものを与えておられます。しかしそれは、人よりも賜物が少ないと感じている自分が、神さまに愛されていないとか軽んじられているということではありません。私たちは、自分に与えられている一タラントンが、すばらしい賜物であり、それを生かして用いて行くなれば必ず豊かな実りが生まれるのです。ですから、人と自分とを見比べて、あの人には何が与えられているか、この人はどうかと、人のことばかりを見つめている目を、神さまの方に向け直したいのです。
- ③ 主人は何のためにしもべたちにお金を預けたのでしょうか。しもべたちに働かせて、その労働の実りを奪い取るためだと三人目のしもべは言っています。要するに、自分の財産を増やすのが主人の目的だと言っているのです。しかし、しもべたちがそのお金を元手に商売をしたところで、それが必ずしも成功するとは限らないのではないのでしょうか。失敗して、投資したものを全て失ってしまうとことだって起こり得るで

しょう。三番目のしもべは、そうならないようにお金を地の中に埋めておいたのです。そうしたら主人は、それならこの金を銀行に入れておけばよかった、利息がついたのにと言いました。だから、この主人がもしも自分の財産を守り、それを確実に増やすということを第一に考えていたならば、五タラントンも二タラントンも一タラントンもすべて、銀行に預けておいた方が危険が少なかったはずです。しかしこの主人は、あえてリスクを犯して、しもべたちにそれを預けました。それはしもべたちを信頼し、期待し、大切に思っているからです。主人は、しもべたちを愛しているからこそ、自分の財産を預けたのです。私たちが、それぞれに違った様々な人生の条件を与えられて、今こうして生かされているのには、この神さまの愛があります。

- ④ 神さまが私たちに投資してくださっているのは、私たちのこの体や、能力、才能だけではありません。神さま私たちに、さらに大切なもの、ご自分にとってかけがえのないものを与えてくださいました。それが独り子イエス・キリストです。それは、神さまがその独り子を私たちのために投資してくださったということです。そこには、当然リスクが伴います。投資された私たちが、その宝を本当に生かして、それに相応しく用いて、良い実りを生み出していくとは限りません。にもかかわらず、神さまはこの世に主イエス・キリストを遣わしてくださったのです。
- ⑤ 主イエスの十字架を見ると分かるように、私たち人間はイエス・キリストという豊かな恵み、賜物を無駄遣いしてしまいました。しかし、そのような罪人を、神さまは見捨てることなく救ってくださったのです。その神さまが、ひとり一人に豊かな賜物を信頼して与えてくださるのですから、神さまに感謝し、失敗を恐れず、神さまのためにすべてを献げて生きていきたいのです。